

「豆類の栽培について」



企画営業課
芳田 慎哉

春夏野菜の定植作業が終わると、次に豆類のは種時期がやってきます。家族の健康のために栄養価の高い黒大豆・白大豆・小豆を栽培してみましょう。

●発芽に適した条件は？

豆類は発芽から生育初期までは湿害を受けやすく、発芽不良や生育不良などが心配されます。対策として排水溝の設置を行いましょ。

●施肥

通常、元肥のみで栽培します。目安として1アール当たり苦土石灰10キロ、ようりん6キロ、緩効性肥料400グラムを目安に施用し土とよく混和します。

豆類は肥料（窒素成分）を多く施用すると生育が旺盛になり、「木」ばかりができてしまいます。その結果、花の数が減少したり莢の付きが悪くなったりしますので、施肥量は前作に比べて加減してください。

●は種

●黒大豆（は種適期6月上旬～中旬）

種子は1アール当たり150～200グラム準備します。
 うね幅 100～120センチ・株間40～50センチ。

（直播栽培） 1粒播ぎした後に軽く鎮圧し、その後十分かん水し覆土を行います。

（移植栽培） 苗を作る場合は、苗床に5×5センチ間隔に1粒ずつ「へそ」を下に向けて播き、本葉が見え始めた頃に定植を行います。定植の際は、子

葉と畦が平行になるように子葉の下まで植え付けます。

●白大豆（は種適期6月中旬～下旬）

種子は1アール当たり500グラム準備します。
 うね幅70～80センチ・株間15～20センチ。

深さ2センチ程度に種を2粒播き、その後十分にかん水を行いましょ。

●小豆（は種適期7月中旬～下旬）

種子は1アール当たり300グラム準備します。
 うね幅80センチ・株間20～25センチ。

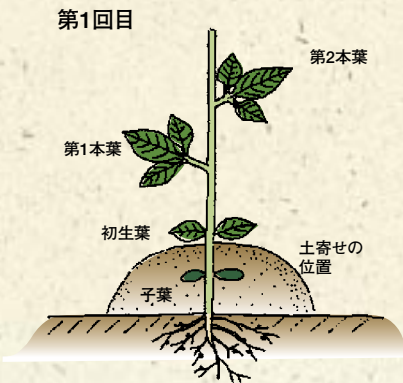
深さ3センチ程度に種を2粒播き、その後十分かん水を行いましょ。

発芽率を向上させるために、砕土は丁寧に行いましょ。

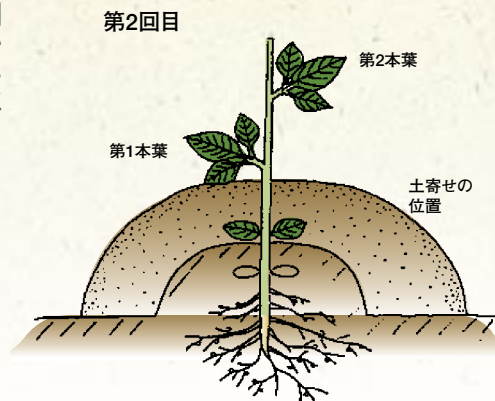
●土寄せ

土寄せは、除草・倒伏防止・根の活性化などを目的に実施します。

1回目 本葉4枚の頃（は種後20日前後）に初生葉の下まで土寄せしましょ。



2回目 本場7枚の頃（は種後30日前後）に第1本葉の下まで土寄せしましょ。



●うね間かん水

開花期に水分が不足すると花や莢が落ちてしまい、莢付きや実の充実が悪くなります。極度の乾燥・過湿を避け土壌水分を一定に保つよう心がけましょ。ただし、長時間滞水すると根腐れを起こすことが心配されますので注意が必要です。

●病害虫防除

開花始めから着莢期にアブラムシ・カメムシ・メイガ等の害虫が発生しましょ。ほ場で害虫を発見したら早期防除に努めましょ。使用農薬はお近くのJA支店生産課にお問い合わせください。